



郡山防災マップ

～楽しく学ぼう防災対策～

郡山女子大学附属高等学校
防災ガールズ

1 テーマとテーマ設定の理由

<テーマ>

防災について楽しく学ぶことができる
コンテンツを作ろう！

<テーマ設定の理由>

福島県内で話題に出る「東日本大震災」は2011年に起きたもので、私たちが幼稚園児のときである。また、ここ数年、地震やゲリラ豪雨などといった被害が多く起きているものの、どこか自分ゴトとして捉えられずにいる。つまり、防災についての重要性はわかってはいても何かからしていいのかわからなかったり、すぐに対策をしなくてもだいじょうぶだと楽観視したりしている。

そこで、こういった現状を改善しようと思い、私たちが部活動を通して学んでいるメタバースやVRを用いて楽しく防災について学ぶことができるコンテンツが作れないか考えた。

2 活動内容について①

最近、防災についての色々な対策が行われている。そこで、私たちにできることは何かを考えた。その結果...

身近な人たちでも防災について
「知って欲しい」「学んで欲しい」

また、内閣府政府広報室より発表されている「防災に関する世論調査概要(令和4年12月)」より、次のことがわかった。

- 若い世代ほど「防災の意識が低い」
- 低い理由として「話し合う機会がなかったから」がもっとも多い
- 対策をしない理由として、「先延ばしにしている」から42.4%、
「面倒だから」が22.3%

つまり、若い世代ほど経験が少なく、またコミュニティの変化によって様々な世代と関わる機会が減少したことで、私たち若者は危機感を持ってない状況にある。
だから、私たちは・・・

学んでもらう対象を、
若者にしようか...

何を使って知って
もらおうか...



対象を小学校高学年から中学生にし、VRを使った体験型にしたら、楽しく学ぶことができそう!!



2 活動内容について②

郡山市の取り組み



防災教育・避難訓練



防災ハンドブックの配布



ハザードマップの配布



シュミレーション動画
の公開

現在作成中の「郡山防災マップ」フレイ画面 ※Clusterにて作成



サムネイル



①危険なところを避け進む



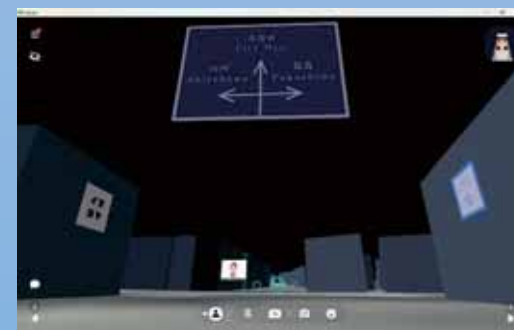
②防災バックをとる



③危険なところを避け進む



④途中、人助けも



⑤避難所へ

3 完成すれば...

VRをつかった防災コンテンツが完成すれば、

- VRは若い世代によって親しみやすいため、取り組みやすい
- VRを通して防災について考えたり、周囲と話したりする機会になる
- さらに、VRを用いることで紙の防災マップよりも疑似的、直感的に体験することが期待できる
- そして事前に防災について学ぶことができれば、実際に起こったときの被害を最小限に抑えることができる
- また、多言語に対応にすれば外国人に、そして高齢者や足の悪い人も活用することができる



4 まとめ

- このコンテンツが広まり、多くの方々に防災について学んでもらい、少しでも対策をし、**自分の命を守ってほしい**
- 8月は園児や小学生に体験してもらったので、次は高齢者の方々や大人の方々にも体験してもらいたい



8月、郡山市で行われた子ども対象のイベントで「作成途中の防災マップ」を体験してもらった時の様子